

2.2.2 B地区ボーリングコア再観察結果

1) 目的

B地区の埋土層の性状について、ボーリングコアの詳細観察を行い、コンクリート様の塊を含む人工異物の有無等の確認をするとともに、コンクリート様の塊が発見されたA井戸南東90m付近のNo.123孔のボーリングコアと比較することで、埋土層の性状の違いについて検討を行った。

また、合わせて、B地区の埋土層以深の自然堆積層の性状についても確認を行った。

2) 観察したボーリングコア

観察したボーリングコアは、当初汚染が確認された民家井戸の直近にあるNo.54ボーリングコアと、B地区で唯一埋土層の最下部に、粘性土が確認されたNo.165ボーリングコアとした。

3) 観察結果

No.54 ボーリングコア（埋土層部）

- ・ GL-10.6mまで埋土層であり、GL-0～5.3m：粘土混り砂、GL-5.3～9.0m：細砂～中砂主体、GL-9.0～10.6m：粗粒砂（礫を多く混入）に細分される。
- ・ 全体的に砂質土（細砂）を主体とするが、GL-5.4～5.6m付近、粘性土分が卓越し、礫が見られる。
- ・ GL-5.3mを境に上部では褐色を呈す粘性土分をブロック状に混入する埋土と、下部では暗灰色を呈し粘性土分の混入が少なくなる埋土に分けられる。
- ・ コンクリート様の塊を含め、人工異物及びその痕跡等は確認できない。

No.165 ボーリングコア（埋土層部）

- ・ GL-11.24mまで埋土層であり、GL-0～1.07m：細砂、GL-1.07～6.05m：シルト混り砂、GL-6.05～8.65m：細砂～中砂、GL-8.65～10.3m：シルト混り砂、GL-10.3～11.24m：砂混りシルトに細分される。
- ・ 全体的に砂質土（細砂）を主体とするが、一部に硬質な円礫が混入する。
- ・ 埋土層最下部の最下部のGL-10.3～11.24m（層厚96cm）は、粘性土を主体とし、比較的均質で、ガラ類等の人工異物は確認できない。
- ・ この粘性土のコアは、掘削時には、異臭を放つ非常に軟弱で高含水の粘性土であった。現在は乾燥し固結した粘性土である。
- ・ この粘性土埋土層は、No.165ボーリングのみで確認され、その他のものでは確認されない。
- ・ GL-6.0mを境に上部では褐色の細砂を主体とし粘性土分をブロック状に混入するが、下部では暗灰色の中砂を主体とし粘性土分の混入が少なくなる。

No.54 ボーリングコア（自然堆積層部）

- ・ GL-10.6m以深が自然堆積層部となり、GL-10.6～29.3mは砂及び細砂と粗砂の互層、GL-29.3～31.9mは砂礫、GL-31.9m以深はシルト混じりの砂となっている。
- ・ 砂及び細砂と粗砂の互層部は、各単層は比較的均質で、一部では堆積構造（ラミナ）が見られる箇

所もある。また、同区間において、粘土層の挟みなどは全く確認できない。

- ・ 砂礫層部は、5～20mm程度の垂円礫が多く見られ、マトリックスも粗砂が主体としている。A井戸等の深度30m付近に見られる砂礫と同等の地層と考えられる。
- ・ シルト混じり砂層は、黄褐色を帯びる地層で、これまでのボーリング調査でどの地点においても、同様の深度に確認されており、付近一帯に広く分布しているものと考えられ、水文的境界になる難透水層と考えられる。

4) コンクリート様の塊が発見された埋土層との違い

掘削調査の結果、コンクリート様の塊が発見された埋土層は、黒灰～暗灰色を呈す廃棄物混じりの粘性土層であり、コンクリート様の塊の他に、空き缶、番線、コンクリートガラ、廃材等が多数混ざっていることが確認されている。

ボーリングコアでは、非常に含水率が少ない微細砂～シルトとして見られ、コンクリート様の塊自体は1～5cm程度の灰白色を呈すコンクリートガラのような形で見られる。

一方、B地区で見られる埋土層は、概ね褐色を呈しており一部において礫が混入する箇所があるが、ほとんどが砂を主体としており、コンクリート様の塊や、その他の異物等は全く確認できない。

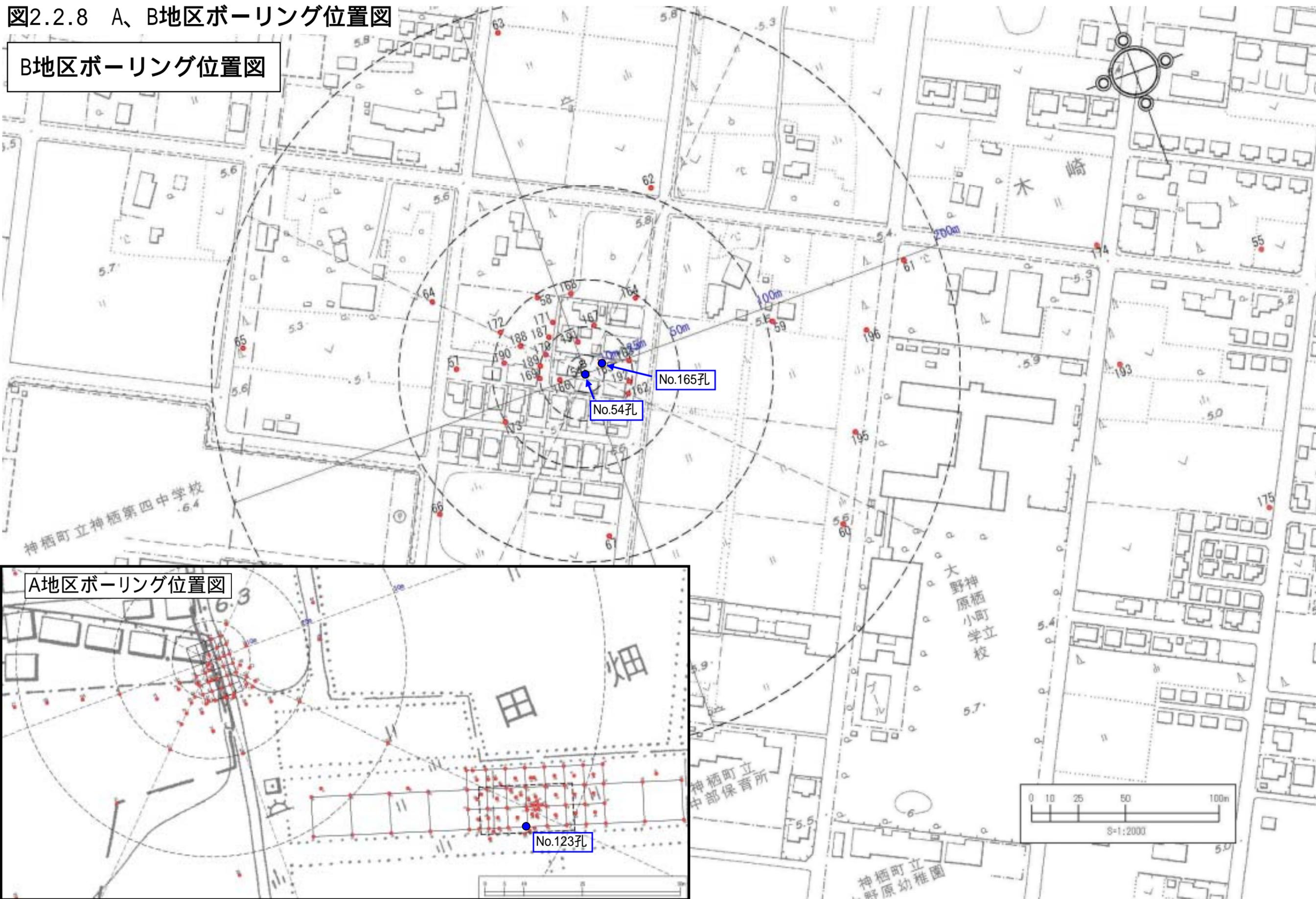
また、B地区のNo.165ボーリングでは、埋土の最下部に粘性土層が見られるが、コンクリート様の塊が発見された埋土層と違って、高含水で均質であり、また側方への連続性もない。

このことから、B地区で見られる埋土層は、コンクリート様の塊が発見された埋土層とは異なるものと考えられる。

なお、B地区のNo.165ボーリングで確認された高含水の粘性土埋土層は、過去の砂利採取に伴って、地下水排除に使われた“かま場”的な凹みであったとも想定される。

図2.2.8 A、B地区ボーリング位置図

B地区ボーリング位置図



A地区ボーリング位置図



表2.2.2 B地区コア再観察結果

ボーリング	54 (B地区)	165 (B地区)	123 (A井戸南東90m)
コア状況写真 (埋土部)			
埋土の土質分類	GL-0~5.3m : 粘土混り砂 GL-5.3~9.0m : 細砂~中砂主体 GL-9.0~10.6m : 粗粒砂 (礫を多く混入)	GL-0~1.07m : 細砂 GL-1.07~6.05 : シルト混り砂 GL-6.05~8.65m : 細砂~中砂 GL-8.65~10.3 : シルト混り砂 GL-10.3~11.24m : 砂混りシルト	GL-0~1.23m : 表土 (砂主体) GL-1.23~3.6 : 礫混り粘土 GL-3.6~5.05m : シルト混り中砂 GL-5.05~6.66 : 中砂 GL-6.66~7.02m : 砂混り粘土
埋土の全体的特徴	<ul style="list-style-type: none"> ・全体的に砂質土 (細砂) を主体とする埋土。 ・GL-5.4~5.6m 付近、粘性土分が卓越し、礫が見られるものの、コンクリート様の塊は見られない。 ・GL-5.3m を境に上部では褐色を呈す粘性土分をブロック状に混入する埋土と、下部では暗灰色を呈し粘性土分の混入が少なくなる埋土に分けられる。 ・B地区で見られる埋土は、ほぼ砂質土主体の埋土である。 	<ul style="list-style-type: none"> ・全体的に砂質土 (細砂) を主体とする埋土。 ・礫が混入するが、硬質な円礫が主体。 ・最下部に見られる粘性土主体の埋土は、比較的均質で、ガラ類は混入しない。 ・この粘性土のコアは、掘削時には、異臭を放つ非常に軟弱で高含水の粘性土であった。現在は乾燥し固結した粘性土。 ・GL-6.0m を境に上部では褐色の細砂を主体とし粘性土分をブロック状に混入するが、下部では暗灰色の中砂を主体とし粘性土分の混入が少なくなる。 ・この粘性土埋土は本孔 (165) のみで確認される。 	<ul style="list-style-type: none"> ・上部 (GL-0~3.6m) および最下部 (GL-6.66~7.02m) は粘性土主体の埋土であり、それ以外は砂質土 (中砂) 主体の埋土である。 ・粘性土主体の埋土中には、コークス、ガラ、雑多な礫を多く含み、コンクリート様の塊も含まれている。 ・B地区の一部で見られる汚泥的な粘性土ではなく、一般的な建設残土のようなものと判断される。 ・A地区で見られる粘性土主体の埋土は、本孔のみならず比較的広範囲に亘っている。
コンクリート様の塊の有無について	コンクリート様の塊など汚染源と考えられる物は見られない。	コンクリート様の塊など汚染源と考えられる物は見られない。	GL-2.18~2.48m : コンクリート様の塊 GL-2.74~2.88m : コンクリート様の塊

図2.2.9 B地区のコア観察結果(ボーリングNo.54)

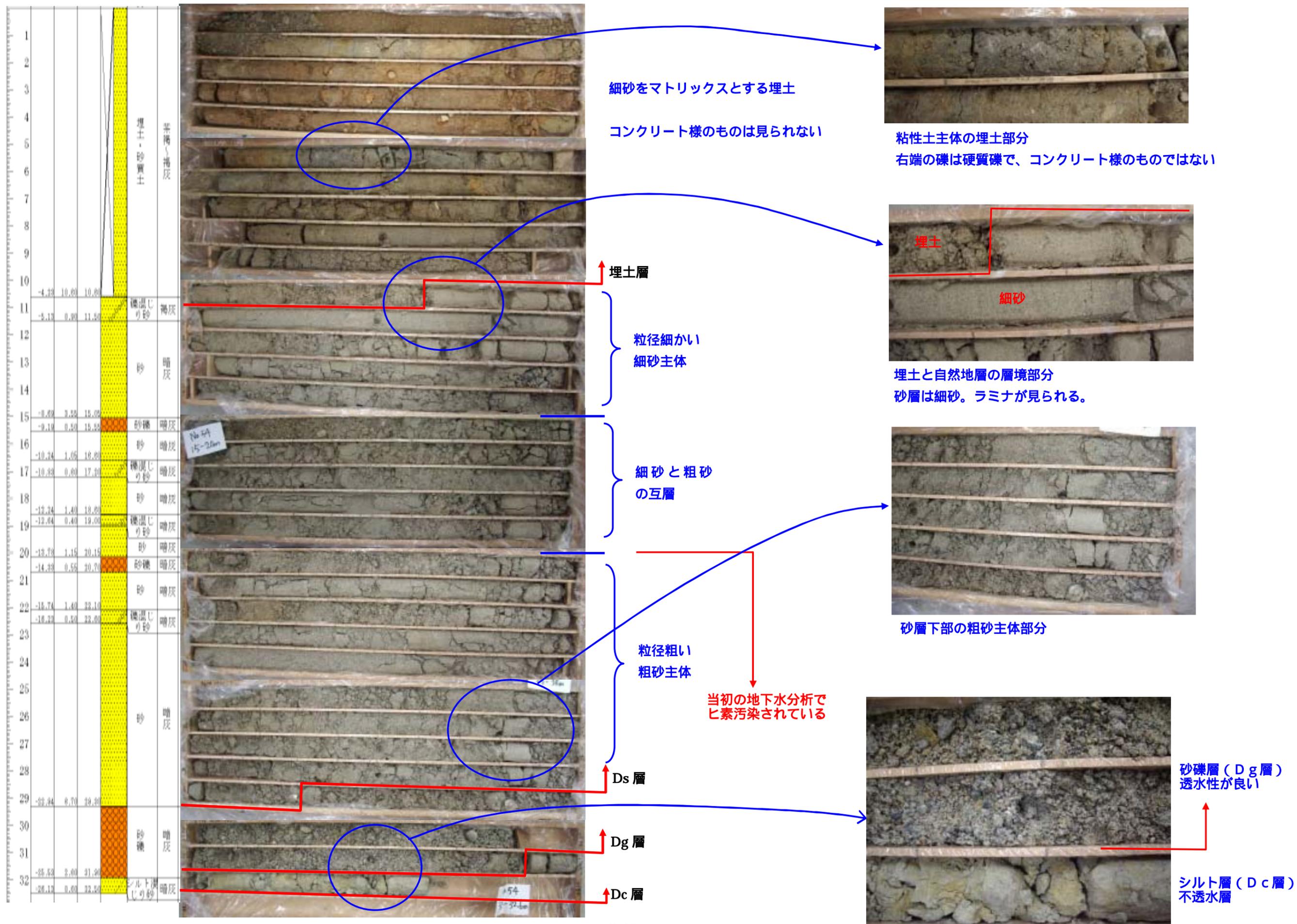


図2.2.10 B地区のコア観察結果(ボーリングNo.165)

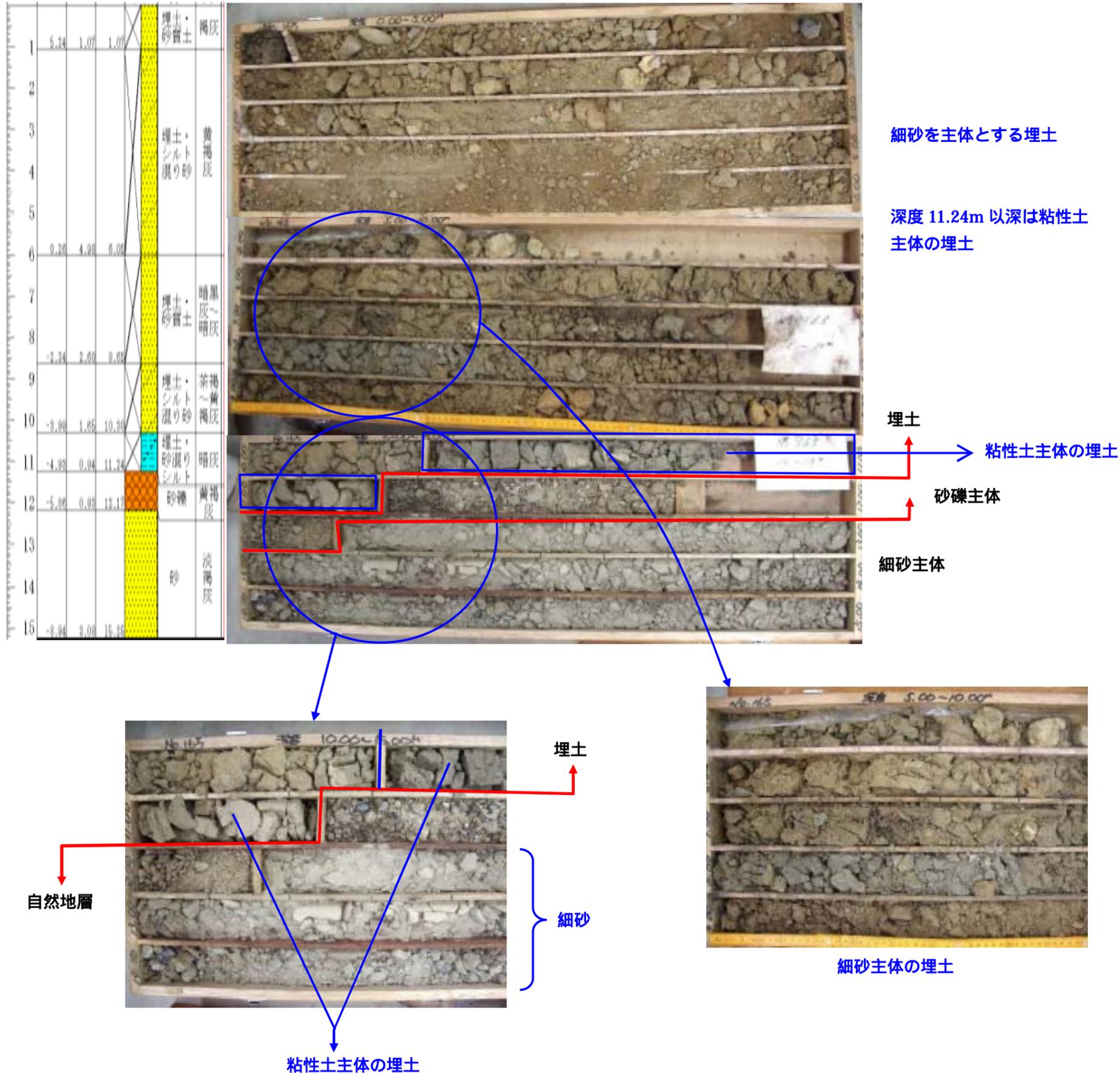


図2.2.11 A地区のコア観察結果
ボーリングNo.123(コンクリート様の塊の箇所)

